

洗足学園音楽大学

第43回

打楽器 アンサンブル 定期演奏会

2022 年 11 月 5 日 (土) 17:00 開演

開場 16:15 (16:30～ガムランアンサンブル)

会場 洗足学園 前田ホール

マリンバオーケストラ

M.ムソルグスキー / 組曲「展覧会の絵」

指揮：現田 茂夫

和太鼓、アングルン、スティールバンドオーケストラ、マーチング 他



主催：洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

本日は「第43回打楽器アンサンブル定期演奏会」にお越しくださり誠にありがとうございます。本年も演奏会が無事開催の運びとなりましたこと、関係者各位に心より感謝申し上げます。新型コロナウイルスに翻弄され、世界を震撼とさせる出来事に心が痛む中、音楽をはじめとする文化芸術の大切さを改めて痛感しております。

本日のプログラムは、打楽器アンサンブルのオリジナル作品をはじめ、日本の伝統芸能で長い歴史を持つ和太鼓、ドラム缶でできたスティールパン、今年再始動したマーチングパーカッション、インドネシアの民族楽器ガムラン、アングルンなど多彩な演目が並びます。またメインの打楽器オーケストラでは現田茂夫氏に初めて指揮をお願いしました。学生たちは大変緊張しておりますが、現田氏の繊細で力強いタクトに導かれる「展覧会の絵」に期待が高まります。

打てば響く打楽器ですが、その世界は大変奥深く無限の表現領域をもっています。学生たちはこれらの多種多様な打楽器と日々誠実に向き合い、自分たちにしか出せない音を追求してまいりました。真摯に取り組んできた学生たちの熱意が皆さまの心に共鳴することを心より願っております。

打楽器コース 統括教授
打楽器アンサンブル音楽監督
石井 喜久子

本日は「第43回打楽器アンサンブル定期演奏会」にご来場頂き誠にありがとうございます。皆様のお力添えのおかげで、無事にこの日を迎えることができ、心より感謝申し上げます。昨年に引き続き感染対策のため座席数を減らしての開催にはなりますが、沢山のお客様にお越し頂き嬉しい限りです。

今年度は打楽器コースの伝統を基に、新鮮な気持ちでお楽しみ頂けるようなプログラムをご用意いたしました。学生一同、皆様の心に残るよう心を込めて演奏致します。

ご来場のお客様、配信をご覧になれるお客様も、どうぞ最後までお楽しみください。

打楽器コース インспекター
田代 万莉子（学部4年）

本日はお越しいただき誠にありがとうございます。皆様のご尽力で、無事に本日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

長きに渡り続いてきた演奏会から更にパワーアップを目指し、各曲共より高いクオリティを目指して練習に励んでまいりました。

ご来場くださった皆様、配信をご覧の皆様へ素敵な時間をお届けできるよう、学生一同心を込めて演奏いたします。最後までごゆっくりお楽しみいただけたら幸いです。

打楽器コース 演奏会責任者
熊谷 彩夏（学部3年）



PROGRAM

GREETING CONCERT

ガムランアンサンブル
CARABALEN チョロバレン
GUGUR GNUNG ググールグヌン
SUMIRAT スミラット
UDAN MAS ウダンマス



第1部

和太鼓
海の豊饒 / 林 英哲

アングルンアンサンブル
ヤモリの歌 cicak
ギラッ
ケチャセンソク



打楽器アンサンブル
Ritual Music / David Skidmore



休憩

第2部

スティールバンドオーケストラ
PAN IN A MINOR / Aldwyn "Lord Kitchener" Roberts (Arr. Jit Samaroo)



マーチング
Kellogg's / 千保木楽斗
Colors / 千保木楽斗, 田中遥己



休憩

第3部

マリンバオーケストラ 指揮: 現田 茂夫
組曲『展覧会の絵』/ M. ムソルグスキー (Arr. 高橋泰生)
UKOZNES / 西原 大樹



ガムランアンサンブル

CARABALEN チョロバレン, GUGUR GNUNG ググールグヌン,
SUMIRAT スミラット, UDAN MAS ウダンマス



演奏者

大石水紀 櫻井秀悠 田代万莉子 栃下紗奈 中田実紅 福本奏音 前田伶弥
江口和輝 大野紗楽 小川友李江 川崎友仁 小山梓 椎名萌 宗像桃子 渡辺優生
竹内夏美 林まど子 宮下真凜 畑津圭吾 林恭輔



PROGRAM NOTES

ガムランとは、東南アジアのインドネシアで行われている大・中・小のさまざまな銅鑼や鍵盤打楽器による合奏の民族音楽の総称であり、バリ・ジャワ(中東ジャワ)など地域ごとに様々な演奏スタイルがある。

本日演奏するジャワのガムランは、中東ジャワの王宮を中心に発達したもので、ゆっくりとした流れと優雅な響きが特徴の、洗練された雰囲気のある音楽である。現代では王宮の儀式の他、結婚式や割礼式などの儀礼の場、舞踊や影絵芝居(ワヤン)の伴奏、定期的な演奏の場など、さまざまな場面で演奏されている。ガムランの音は人間の心を癒す効果があるといわれており、化学的にもリラックス効果がある音楽であることが証明されている。本日は、ガムランの優雅な響きにぜひ癒されていたきたい。

学部4年 大石水紀



和太鼓

海の豊饒 / 林 英哲



演奏者

大太鼓

榎本耀 岡澤七海 小野寺俊介 佐藤綾香 横木秀真 廣木太陽 大島一輝 廣瀬歌菜

桶太鼓

入江美咲 中田実紅 熊谷彩夏 渡辺優生 宮下真凜



PROGRAM NOTES

2004年に和太鼓界のレジェンド、林英哲が作曲した迫力溢れる和太鼓楽曲。広島県と愛媛県を結ぶしまなみ海道の全線完成を記念し委嘱された曲で、太鼓を両側に置いて大きな動作でアクロバチックに打つ。小さな島がたくさん連なる瀬戸内海をイメージして作った曲で太鼓を島に、演奏者は島を繋ぐ橋や人として、海・島・人との豊かな営みを表している。

和太鼓の起源は諸説あるが縄文時代には既に情報伝達的手段として利用され、6世紀頃に作られた古墳から太鼓を持った埴輪が発掘されている。和太鼓の重低音は胎児がお腹の中で聴く、お母さんの心臓の音に似ていることから、どんなに大きな音でも人間は心地よく感じられるそうだ。

今回は16台の和太鼓と総勢13名によるパフォーマンスで、海の如く押し寄せる力強い演奏を、会場に響かせる。

アングルンアンサンブル

ヤモリの歌 cicak

ギラッ

ケチャセンゾク

演奏者

江原和紀
栃下紗奈
林拓海
横木秀真
小川友李江
川崎友仁
佐山果凜
宗像桃子
渡邊拓斗
渡辺優生
松田有平
吉田創



PROGRAM NOTES

竹のハンドベルと言われているアングルンは、インドネシア・ジャワ島のバンドゥン地方を中心に、子どもからお年寄りまで幅広い世代に親しまれている民族楽器。竹の心地よい響き、1台1音の楽器を大勢で協力して曲をつむぐ演奏スタイルをお楽しみ頂きたい。

①「ヤモリの歌 cicak」(インドネシアの童謡)

ヤモリが壁にはり付いていて、虫を「パクッ」(ハップ)と食べるかわいらしいしぐさを歌っている。

②「ギラッ」

アングルンはバリ島のガムラン音楽の中でも演奏される。スレンドロ音階の4つの音が、細かく絡み合う「ギラッ」という曲は、演奏者の高い技術が要求される。

③「ケチャセンゾク」

「ケチャ」はガムランと並ぶ、バリ島を代表とする芸能の1つ。「チャチャチャ」という言葉が、細かく早い速度で絡み合うのが特徴。今回は、以下の5つのパートに分けた洗足バージョン。

- ・指揮者役的なリーダー
- ・メロディー「イリヤーコリヤー」
- ・テンポキーパー「シリリリポンポンポン」
- ・チャ part 1
- ・チャ part 2



飯田 茂樹

打楽器アンサンブル

Ritual Music / David Skidmore



演奏者

Perc1 田代万莉子

Perc2 福本奏音

Perc3 近藤寛斗

Perc4 栃下紗奈



PROGRAM NOTES

デイヴィッド・スキッドモアはアメリカの打楽器奏者であり作曲家。ノースウェスタン音楽大学で修士号を取得。2005年には打楽器アンサンブル「サードコーストパーカッション」を自ら設立し、演奏、作曲活動を展開。同アンサンブルは、2017年にグラミー賞の最優秀室内楽賞を受賞するなど、世界的に高い評価を得ている。彼の作品は、クラシック、ポップス、ロック、アヴァンギャルド、映画音楽と幅広いジャンルにわたっている。《リチュアル・ミュージック》はシカゴのダンスグループ「Raziel」のために書かれ、2005年春、彼らの講演によって初演された。タイトルにある「リチュアル」とは英語で宗教的な儀式を意味する。原始的で、荒々しい音色とともに、対位法やセリー（音列主義）風の発想と処方を用いられ、曲中のマリンバのピッチ、リズムカルなモチーフ、フレーズはすべて数値化されている。そのため数値的で機械的な音楽基盤に激しく管理されているが、儀式的音楽の呪文は強力な印象を聴き手にもたらし、楽器が叫び、うめき声をあげ、時に泣き叫ぶかのようである。

学部4年 栃下紗奈



スティールバンドオーケストラ

PAN IN A MINOR / Aldwyn “Lord Kitchener” Roberts (Arr. Jit Samaroo)

演奏者

High Tenor Pan

北山絢萌 小山梓

Low Tenor Pan

大塚愛美 杉本裕香 田代万莉子

星陽華 小川友李江

Double Tenor Pan

天谷芽生 椎名萌

Double Second Pan

大石水紀 熊谷彩夏

Guitar Pan

佐山果凜

Triple Cello Pan

栃下紗奈 川崎友仁

Tenor Bass Pan

竹内夏美

Six Bass Pan

福本奏音 宗像桃子

Drums

渡邊拓斗

Conga

リー泰我

Iron Timbales

吉田創

指導 中野優希



PROGRAM NOTES

この曲は、“パノラマ”のために作曲された。

“パノラマ”とは、スティールパン発祥の地トリニダード&トバゴのカーニバルであり、世界三大カーニバルの目玉として親しまれている。世界中から150以上にわたるスティールパンバンドの団体が参加する程の大きなイベントである。

原曲の作曲者“Lord Kitchener”はカリプソ音楽を支える中心的存在であり、「カリプソのグランドマスター」「戦後の最も偉大なカリプソニアン」と数々の称賛を得ている。彼の曲には高度にシンコペーションされたメロディーが含まれ、コードの変化やユーモラスなひねりを加えた音楽が特徴的だ。

「PAN IN A MINOR」は、全てのスティールパン、さらには低音までもが非常に速いパッセージが緻密に組み込まれ、プレイヤーの器用さが誇示された曲である。

学部4年 田代万莉子



マーチング

Kellogg's / 千保木楽斗
Colors / 千保木楽斗, 田中遥己



演奏者

『Kellogg's』

- B.D 1 千保木楽斗
B.D 2 吉田創
B.D 3 岡崎颯太
B.D 4 土居祥大

『Colors』

- Snare 千保木楽斗 田中遥己
小山梓 佐々木和奏
Tenor 岡崎颯太 椎名萌
Bass 宮下真凜 原佑安
土居祥大 加藤海夏太
Marimba 松田有平 林恭輔
Vibraphone 林まど子 吉田創
Glocken 阪本真唯
Piano 竹内夏美
Drums 渡邊拓斗



PROGRAM NOTES

マーチングバスドラムのみでのアンサンブル。4人の音色、音量、タイミングが一つとなりはじめてこの楽器は成立する。マーチングバスドラム特有の音色や音回しを目と耳で楽しんでいただきたい。

学部2年 千保木楽斗

本作”Colors”では、マーチングではほとんど目を向けられることのなかった、キャスト一人一人の持つ個性に焦点を当てている。

冒頭に現れるモチーフは、僅かに見え隠れする個性を埋没させるかのように繰り返し提示され、第一に”揃っていること”の美しさを追求する現代のマーチングを映し出す。

その後現れる鍵盤楽器のアンサンブルは、マーチングのそれとはかけ離れた、色彩に満ちた世界を描き出す。やがて2つの世界が交差し、呼応するかのように奏でられる各セクションのアンサンブルは、それまでのマーチングにおいては目の目を見なかった個性の象徴である。”揃っていること”の美しさの中に、一人一人が持つ全く違った色(Color)が一切隠されることなく並び立つのである。

本作は、今日の公演に向け制作された完全オリジナル作品である。
マーチングというスタイルの新たな可能性を、是非感じ取っていただきたい。

学部2年 田中遥己



マリンバオーケストラ

指揮 現田 茂夫

組曲『展覧会の絵』 / M. ムソルグスキー (Arr. 高橋泰生)

第1プロムナード

小人(グノーム)

第2プロムナード

古城

第3プロムナード

テュイルリーの庭

ビドロ(牛車)

第4プロムナード

卵の殻をつけたひなごりのバレエ

サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ

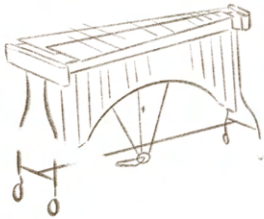
リモージュの市場

カタコンベ

死せる言葉による死者への話しかけ

鶏の足の上に建つ小屋(バーバ・ヤガー)

キエフの大門



UKOZNES / 西原 大樹

演奏者

Concertmaster 櫻井秀悠

Marimba1 櫻井秀悠 古橋優実 渡辺歩紀 内田光太郎 三好花梨

Marimba2 田代万莉子 天谷芽生 廣木太陽 田村夢佑亜 松田有平

Marimba3 小野寺俊介 大塚愛美 相川拓音 石井梨菜

Marimba4 福本奏音 林拓海 川崎友仁 中村侑人

Marimba5 江原和紀 中田実紅 佐山果凜 竹内夏美

Marimba6 榎本耀 林英希 渡辺優生 土居祥大

Marimba7 伴玲音 前田伶弥 大野紗楽 小川友李江

Marimba8 大石水紀 佐藤綾香 熊谷彩夏 宗像桃子 浅井惇

Vibraphone1 栃下紗奈 小山梓 Vibraphone2 入江美咲 吉田創 Vibraphone3 北山絢萌 鎌田千尋

Xylophone1 金正紗也加 林まど子 Xylophone2 廣瀬歌菜

Glockenspiel1 杉本裕香 楊宜達 Glockenspiel2 八木優弥

Chime 前田歩都 椎名萌 古仲咲希 宇佐美裕大 畑津圭吾

Timpani1 近藤寛斗 Timpani2 江口和輝

Percussion 岡澤七海 横木秀真 星陽華 山野智広 渡邊拓斗 千保木楽斗 リー泰我 両倉愛斗

パイプオルガン 本学講師 荻野 由美子

PROGRAM NOTES

組曲『展覧会の絵』 / M. ムソルグスキー (Arr. 高橋泰生)

組曲「展覧会の絵」は、1874年にロシアの作曲家であるモデスト・ムソルグスキーが35歳の時に作曲したピアノのための組曲である。

ムソルグスキーの友人であったヴィクトル・ハルトマンが、39歳で急死した際に開かれた遺作展を鑑賞した際に大きなインスピレーションを受け、わずか3週間足らずで本作品を完成させた。10枚の絵にちなんだ楽曲と、いくつかのプロムナードによって構成されている。プロムナードとは、日本語で散歩を意味し、ムソルグスキーが展覧会で絵を鑑賞している様子を表しているものである。

ムソルグスキーの生前は演奏されることも出版されることもなかったが、ムソルグスキーの遺稿の整理にあたったリムスキー・コルサコフが作品に改定を加え、出版されることとなる。また、1922年にモーリス・ラヴェルが編曲した管弦楽版も有名な編曲となっている。

学部4年 林 英希

UKOZNES / 西原 大樹

今回の演奏会に際してこの曲、UKOZNESの解説を頼まれた。

…困った…。

このUKOZNESは約30年前にアンコールピースのような位置を想定して作ったものだから、解説するような背景や考えといったものは無いに等しい。

…うーん、困った…。

そこで作曲者ながら一体どんな曲だったのかYOUTUBEで検索してみた。

あったあった、今は便利だね。

UKOZNESは毎年やっているようで様々な動画がアップされている。それらを見ていると色々な工夫があったり、パフォーマンスを盛り込んでいたりバラエティに富んでいて、どれも同じものは無かった。また、どの演奏も楽しんでいるのが伝わってくる。張り切り過ぎて音を外したり、感極まって涙目になっている学生も確認した。もはや自分の手を離れた曲になっている(笑)。これらを見ながらこんな言葉を思い出した。

「人は大抵音楽家が音楽を作ると考えるが、現実には音楽こそが音楽家を作り上げるのだ。」

プログレッシブロックの雄、キングクリムゾンのギタリスト、ロバート・フリップ曰く。このUKOZNESが未来の音楽家を作り上げる一端を担っているんだとしたら、何よりも嬉しい。



西原大樹 made in SENZOKU



PROFILE



©K. Miura

指揮 現田 茂夫

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。1986年二期会オペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラ・デビュー後、二期会オペラ「こうもり」等で活躍する一方、オーケストラコンサートでも実績を積む。1987年、新星日本交響楽団指揮者に就任。1988年来日中のドレスデン・フィルに客演。1990年新星日響とヨーロッパ演奏旅行。同年ウィーン国立歌劇場に国

費留学。1991年スロヴァキア・フィルに客演。1992年プラハ国立歌劇場日本公演の指揮者として客演。同年プラハ交響楽団の定期公演に初登場し、翌年「プラハの春」での「佐藤しのぶリサイタル」は、センセーショナルにヨーロッパで放送された。1996年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年4月より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高い評価を得た。オペラ指揮者としても経験豊かで、関西二期会、東京二期会を中心に数多くの公演を行なっている。「佐藤しのぶドラマチック・リサイタル」(全国ツアー)、「夕鶴」のカザフスタン/ウズベキスタン/東京公演、「天守物語」等、日本のオペラも積極的に行なっている。2004年秋にはブラチスラヴァでスロヴァキア国立歌劇場の「椿姫」を指揮し、さらに同日本公演でも好評を博した。2002年から15年は錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め全国公演。2011年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で「椿姫」を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出「夕鶴」の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール(イタリア/トレント)の審査員や、NHKの「FMシンフォニー・コンサート」のパーソナリティを3年間務めるなど、バラエティに富んだ活動を行なっている。



©Makoto Ebi

和太鼓指導 林 英哲

(太鼓奏者、作曲・演出家／英哲風雲の会主宰・芸術監督)

佐渡・鬼太鼓座、鼓童の創設に関わり、通算11年間活動。1982年ソロ活動を開始。初の和太鼓ソリストとして、大太鼓ソロ奏法や多種類の太鼓群を用いた独奏法の創作、舞台作品の創作・演出、ジャンルを超えた世界のアーティストやオーケストラと共演など、前例のない太鼓音楽“の表現を築く。

英哲風雲の会を率いての国内での独自の演奏活動はもとより、

カーネギーホール出演やベルリンフィルとの共演など、国内外のオーケストラからソリストとしての招聘も毎年及び、欧米を始め54カ国におよぶ海外公演で人気を博す。2022年独奏40周年を迎え、サントリホールで記念公演を開催。

現在も太鼓によるまったく新しい音楽的舞台表現での独自のコンサート・ツアーを展開中。

1997年芸術選奨文部大臣賞、2001年日本伝統文化振興賞、

2017年松尾芸能賞大賞、2021年JST山本邦山記念賞、

2022年第32回福岡アジア文化賞大賞を受賞。



ガムラン指導 森重行敏

東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。小泉文夫教授の影響で日本およびアジアの音楽に関心を持ち、ガムラン演奏グループの立ち上げなどに関わる。

1995年 現代邦楽研究所の開設にあたり授業系主任。

現在、洗足学園音楽大学のほか、桐朋学園芸術短大、東京芸術大学音楽環境創造科、尚美学園大学にて日本音楽理論の講義担当。

洗足学園音楽大学客員教授。同大学付属現代邦楽研究所所長。日本ガムラン音楽振興会理事。



アングルン指導 飯田 茂樹

1958年静岡県沼津市生まれ。国立音楽大学ピアノ科を卒業後、インドネシア政府留学生として1983年から3年間、バリ島のインドネシア国立芸術大学（ISI Denpasar）に日本人初の留学生としてガムラン音楽を学ぶ。東京学芸大学・大学院音楽教育学修士。2015年まで29年間、東京・青山の「こどもの城」音楽事業部に勤務。ガムランやサン

バ、アングルンなど世界の民族音楽の講座を受け持ち、子どもたちに民族音楽に親しんでもらうきっかけづくりを行った。また、そのかわり、東京学芸大学、宮城教育大学などで非常勤講師として民族音楽の演習の授業も行っている。著書に「レッツプレイサンバ みんなでリズムアンサンブル（共著）」（音楽之友社刊）。CD作品として椰子の葉の調べ「ササンドゥ」インドネシア・小スンダ列島の音楽、「多彩なインドネシア」（キングレコード）、バリ島のガムラン音楽「グンデル・ワヤン」（インドネシア楽器協会）などがある。現在、NPO法人日本インドネシア・バリ教育文化協会代表理事。

【インスペクター】

田代万莉子

【演奏会責任者】

熊谷彩夏

【学生ステージマネージャー】

椎名萌

小川友李江 渡辺優生 廣瀬歌菜 宮下真凜 吉田創

【広報・プログラム】

小山梓